

自分に挑み続ける！

～夢を叶えたジェントルマンレーサー～



猛スピードでサーキットを駆け抜けるフォーミュラカーレースの「スーパージ」で、なんと51歳で九州チャンピオンになった中島功さん（多岐町）。

日々の努力で仕事と趣味を両立させながら夢に向かって挑戦し続ける、中島さんにお話を伺いました。

サーキットを最高速度200km/hを超えるスピードでせめぎ合う、フォーミュラカーレース「スーパージ」。手に汗握る大迫力のカースポーツ界で活躍しているのが、多岐町在住の中島功さんです。

「昔からエンジンのついた乗り物、とりわけ車が大好きで、20代の頃はレーサーを夢見て、初級者向けの『FJ1600』に挑戦したこともありました。しかし、結婚を機に、家庭を大切にしようとして辞めました。31歳で起業してからは、仕事一筋で働いてきました。子どもたちが独立し、仕事も軌道に乗ってきたので、5年前からレースに挑戦するようになったんです」と語る中島さん。

最初は、マツダロードスターを改造し、ロードスターカップというレースに参戦。持ち前のドライビングテクニックで、優勝を収めたこともありました。3年前からは、本格的にレースに挑戦しようと「スーパージ」に参戦しました。

しかし「モータースポーツ」というように、カーレースは体力を著しく消耗する激しいスポーツであり、さらに「スーパージ」は、プロレーサーを夢見る10代、20代が「がむしゃら」に攻めてくる激しい舞台。

中島さんは、若手と渡り合うために体づくりから始め、日々のトレーニングと食事改善で、6kgの減量に成功。また「やるからには本気で」と、サーキットの聖地である鈴鹿サーキットに通い、腕と感覚を磨きました。

努力の結果、2年目にして「JAF九州選手権シリーズ」2017年で、見事チャンピオンに輝きました。

「レースでは、瞬時の判断力やテクニックが勝負を左右します。九州地区大会での年間チャンピオンは、私が最高齢。レーサーとして年齢的には上ですが、年齢のせいで負けるとは認めたくありませんから、まだ



2017年
JAF九州選手権シリーズ
年間チャンピオン

なかしま いさお
中島 功 さん